

都道府県別賞一等

去年の夏休みの出来事

京都府 京都市立上京中学校 一学年

河村 梓姫

去年の八月九日、私は伊丹空港にいました。母の実家がある山形に向かうためです。

いつもは母もいっしょに一週間程、山形で夏休みを過ごすのですが、母は山形に私と弟二人をおじいちゃんとおばあちゃんにお願いすると、二日後に母だけが京都の家に戻りました。入院して腫瘍の手術をうけるためです。

おじいちゃんたちが大きな公園に連れていってくれたり、足湯を体験したり、私たちが楽しく過ごせるように気をつかってくれているのがわかりました。ただ、弟たちがケンカをすると、私やおばあちゃんでは止められないこともありました。また、昼間はにぎやかな上の弟が寝る前に

「お母さん、死んじゃうのかな。」

と聞いてくることができました。私は

「大丈夫！死なないよ。」

と返しながらも少し不安でした。

八月二十二日、夏休みが終わる前に父が私たちを迎えに来てくれる予定だったので、父を迎えに行ったおじいちゃんのを家の前で待っていました。

「サプライズ」

と母が車からおりてきました。

「予定より早く退院できたから。」

と母も山形まで迎えにきてくれたのです。弟たちは文字通りとびはねて喜んでいました。私は母らしいサプライズだと思いました。

次の日、母は何かの書類を書きながら

「いざというときのためのそなえてやっぱり大事よね。」

とおばあちゃんと話していました。私が

「何してるの？」

と聞くと

「生命保険の書類だよ。自分でも入っているけど、おばあちゃんがお母さんの結婚前にかけてくれていた分だよ。」

私は生命保険という単語は、コマーシャルなどで知っていたけれど、実際には一切どんなものか知っていなかったし、自分にはまだ関係ないと思っていました。ですが母は私に昔、弟が入院したときにも生命保険にお世話になったと

第61回中学生作文コンクール

教えてくれました。

「ケガも病気もしないのが一番良いかもしれないけど、何かあったときに助けることになる。うちは五人家族だから大変なときもあるけどね。」

私は母の入院で、はじめて生命保険を身近に感じました。家族が元気だったら気付かなかったと思います。

「縁の下の力持ち」

という言葉みたいだと思います。

母は退院後、みるみる元気になりました。そして、弟たちのケンカを止めるのはやっぱり母が一番上手です。